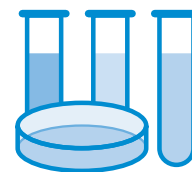


細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)

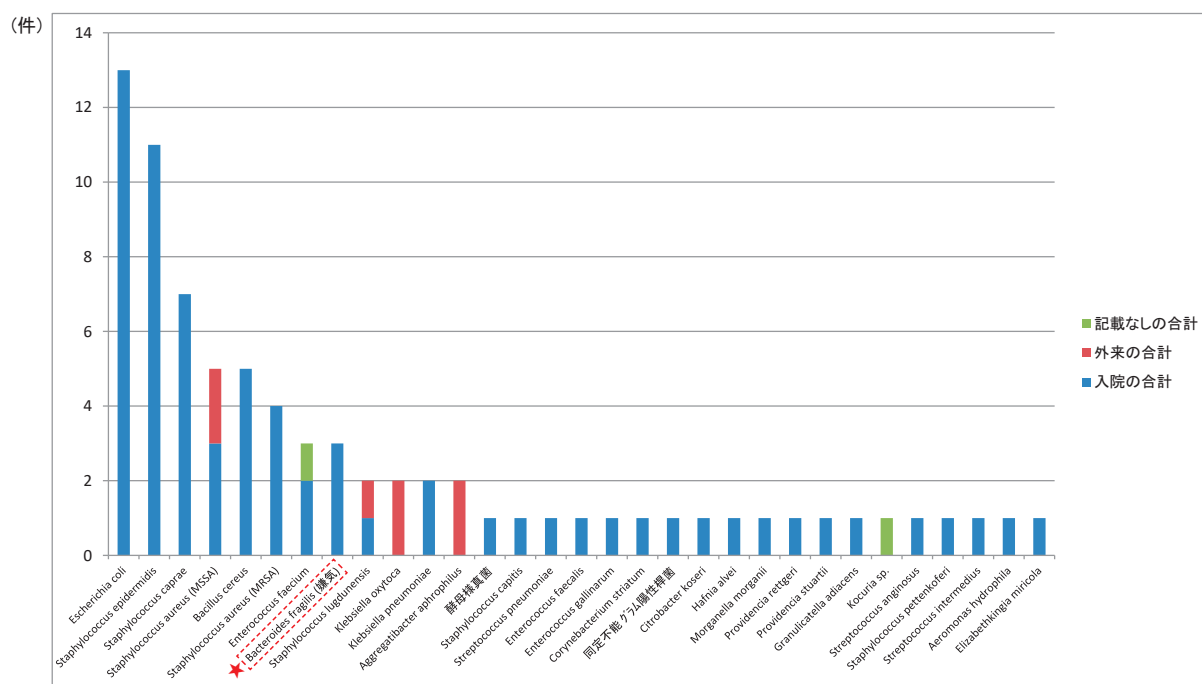


当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況及び細菌薬剤感受性情報を一部取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されていますので、併せて診療にお役立ていただけたら幸いです。

今回は、血液・穿刺液からの細菌検出状況と *Escherichia coli* の薬剤感受性情報と薬剤耐性菌分離状況を掲載いたします。

【細菌検出状況】

【血液・穿刺液】細菌検出状況 2021年01月



血液・穿刺液材料から1番多く検出される嫌気性菌は、*Bacteroides fragilis* です。
Bacteroides fragilis は、腸管内に常在する偏性嫌気性グラム陰性桿菌で、嫌気性菌による菌血症としては本菌が最も多く検出されています。

その他には、虫垂炎などの腹腔内感染症、軟部組織感染症、術後感染症などの原因菌としても検出されています。

【Escherichia coli 薬剤感受性情報】

2021年 1 月分

系統	薬剤記号	商品名	株数	%		
				S(感性)	I(中間)	R(耐性)
ペニシリン系	PIPC	ペントシリン	267	57	15	28
セフェム・オキサセフェム系注射薬	CEZ	セファメジン	126	49	2	48
	CMX	ペストコール	21	71	0	29
	CTX	セフォタックス	147	61	1	38
	CTRX	ロセフィン	162	66	0	34
	CAZ	モダシン	267	84	6	10
	CZOP	ファーストシン	267	74	11	15
	CFPM	マキシビーム	126	90	6	4
	CMZ	セフメタゾン	126	99	1	0
	FMOX	フルマリン	126	100	0	0
セフェム系経口薬	CPDX	バナン	288	59	1	40
	CFPN	フロモックス	288	59	4	37
	CDTR	メリアクト	288	61	2	36
	CFTM	トミロン	21	71	0	29
カルバペネム系	IPM	チエナム	288	100	0	0
	MEPM	メロペン	267	100	0	0
その他β-ラクタム系	FRPM	ファロム	126	94	5	2
	ACV	オーゲメンチン	126	83	11	6
	S/C	スルベラゾン	141	97	1	1
	T/P	ゾシン	21	100	0	0
アミノグリコシド系	AMK	アマカシン	126	100	0	0
	GM	ゲンタシン	126	92	1	7
テトラサイクリン系	MINO	ミノマイシン	288	95	3	2
その他抗菌薬	FOM	ホスミシン	288	89	2	9
合成抗菌薬	LVFX	クラビット	288	49	3	48
	TFLX	オゼックス	147	41	1	59
	GRNX	ジェニナック	288	49	4	47
	ST	バクタ	288	78	0	22

【薬剤耐性菌分離状況】

2021年 1 月分

耐性菌名		呼吸器系		消化器系		泌尿器系		血液・穿刺液系		その他(膿など)	
		耐性率(%)	耐性菌件数	耐性率(%)	耐性菌件数	耐性率(%)	耐性菌件数	耐性率(%)	耐性菌件数	耐性率(%)	耐性菌件数
ESBL (基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ産生菌)	Escherichia coli	52%	13	12%	5	27%	97	46%	6	42%	8
	Klebsiella pneumoniae	28%	15	0%	0	25%	15	0%	0	0%	0
	Proteus mirabilis	79%	11	—	0	43%	17	—	0	40%	2
	Klebsiella oxytoca	0%	0	—	0	56%	5	0%	0	0%	0

耐性率 = (材料別耐性菌件数) ÷ (材料別検出菌件数) × 100

耐性率が「—」で表示されているものは、材料別検出菌の検出がないものです

ESBL 産生菌は、本来ペニシリン系薬のみを分解する酵素が第 1 世代から第 4 世代の各セファロスポリン系薬やモノバクタム系薬も分解するように変化したβ-ラクタマーゼを産生する薬剤耐性菌です。

ESBL 産生の *Escherichia coli* は、呼吸器系、血液・穿刺液系、その他材料では約 40~50%を占めています。

当検査センターホームページでは細菌検出状況(検査材料別)、細菌薬剤感受性情報(菌種別)、薬剤耐性菌分離状況情報についての情報をご覧ください。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>

検査科微生物係